

2. 時代や社会の潮流と千代田区のスポーツを取り巻く環境

2.1 概要

- ◆スポーツは、世界共通の人類の文化である。
- ◆スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。（スポーツ基本法 前文から掲載）
- ◆千代田区の地域特性
 - ◇夜間人口約4万7千人、昼間人口約82万人（平成22年 国勢調査）。
 - ◇学校では、私立中学校（12校）、私立高校（16校）、私立大学（15校）が多い。
 - ◇皇居の周回コースは市民ランナーのメッカ。
 - ◇57の坂も利用してウォーキングコースに。
 - ◇区内にラジオ体操会発祥の地、日本野球発祥の地があり、ラジオ体操会は区内4か所で通年実施。

2.2 時代や社会の潮流とスポーツの役割・期待

時代や社会が変化する中、スポーツにも様々な課題を解決する役割や期待が向けられています。

(1)「子ども」

少子化などの影響で、子どもたちは、兄弟姉妹や友達同士で集まって遊ぶ機会、特に、外遊びの機会が減少していると言われており、その結果、体力の低下、コミュニケーション能力の不足などが課題となっています。また、家庭生活においては、睡眠時間の減少、朝ごはんを食べないなどの生活習慣の乱れが指摘されています。さらに、学校においては、不登校、引きこもり、いじめなどが問題となっています。

このような状況において、スポーツには、身体を動かす機会、人と触れ合う機会、目標に向かって努力する機会などを提供する役割もあり、体力向上はもとより、コミュニケーション能力や他人を思いやる心、積極的に行動する姿勢などを培うことによって、子どもたちを取り巻くこれらの課題を解決することが期待されています。

(2)「成人」

高度情報化や都市化などの進展とともに、成人の運動不足が進み、それを一因とする生活習慣病の増加が課題となっています。また、人々が生活の質、豊かさを追求するようになり、自由時間の充実などが求められています。

このような状況において、スポーツには、身体を動かす機会の提供による健康増進や、生活に豊かさやゆとりをもたらすことが期待されています。

(3)「高齢者」

平成 23 年版高齢社会白書によると、我が国の平成 22 年 10 月の 65 歳以上の人口は、過去最高の 2,958 万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は 23.1%となっています。高齢化率は今後も上昇が見込まれており、平成 67 年には、40.5%まで上昇すると推計されています。

このような状況において、スポーツには、介護予防を含めた高齢者の健康増進への貢献が期待されるほか、仕事や子育てを終えた高齢者が、第二の人生をいきいきと豊かに過ごすために、生きがい創出のための場や機会を提供する役割が求められています。

(4)「地域社会」

多くの地域では、地域住民の交流が少なくなり、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。地域コミュニティの希薄化は、青少年の健全育成や福祉など、本来、地域が有していた様々な機能を低下させます。

特に、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災では、改めて地域のつながりや絆を再認識することとなり、地域の防災や安全には地域コミュニティは欠かせないものとなっています。

スポーツには、地域住民の交流、多世代間の交流などを促し、地域コミュニティ再構築のきっかけになる役割が期待されています。

2.3 千代田区の地域特性

(1)人口及び職業

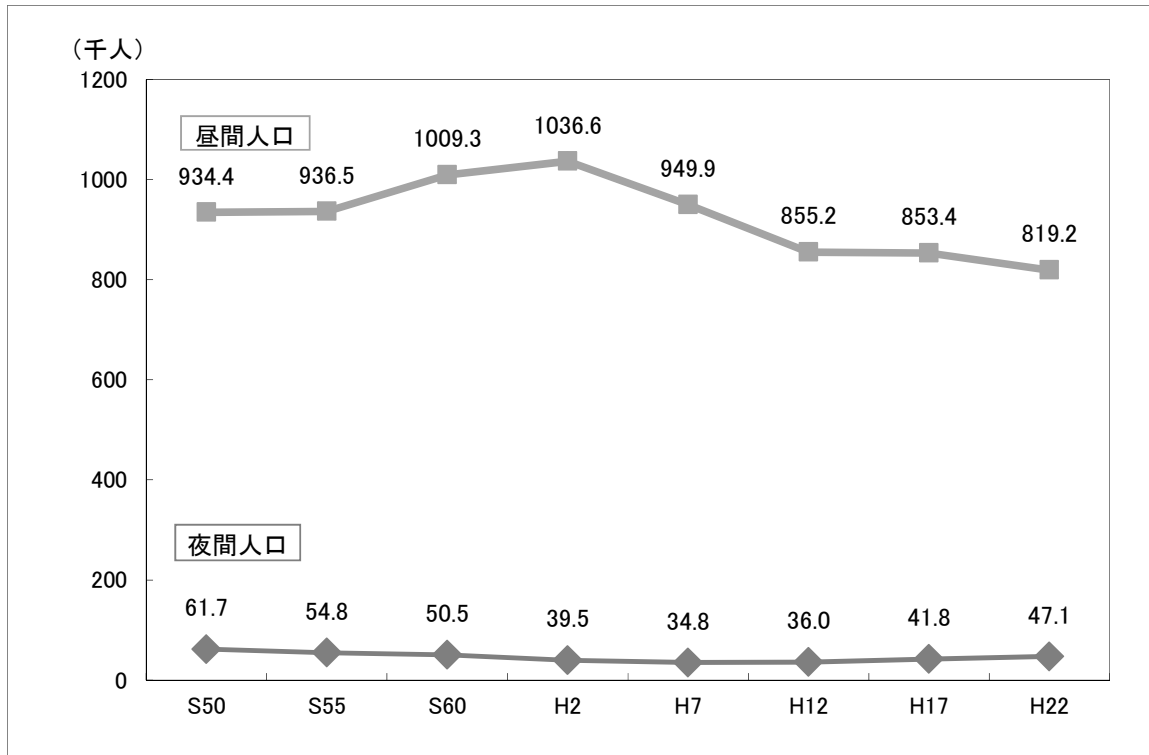
千代田区の人口（夜間人口）は、昭和 30 年代から徐々に減少し、昭和 50 年の約 6 万 2 千人から、平成 7 年には約 3 万 5 千人まで減少しました。その後、平成 7 年以降は増加傾向に転じ、平成 22 年には約 4 万 7 千人まで回復しました。

また、昼間人口は、平成 2 年の約 104 万人をピークに減少傾向に転じ、平成 22 年には、約 82 万人となっています。年齢別構成をみると、14 歳以下が 1 割程度、15～64 歳が 7 割程度、65 歳以上が 2 割程度であり、この 5 年はそれほど変動がありません。65 歳以上の高齢者をみると、23 区合計や全国では更なる高齢化が進行していますが千代田区では平成 19 年と比較して横ばいの状況となっています。

平成 22 年の昼間人口に対する夜間人口の比率は、約 6%であり、千代田区の特徴としては、在住者に対して、在勤者の割合が圧倒的に多いことが挙げられます。

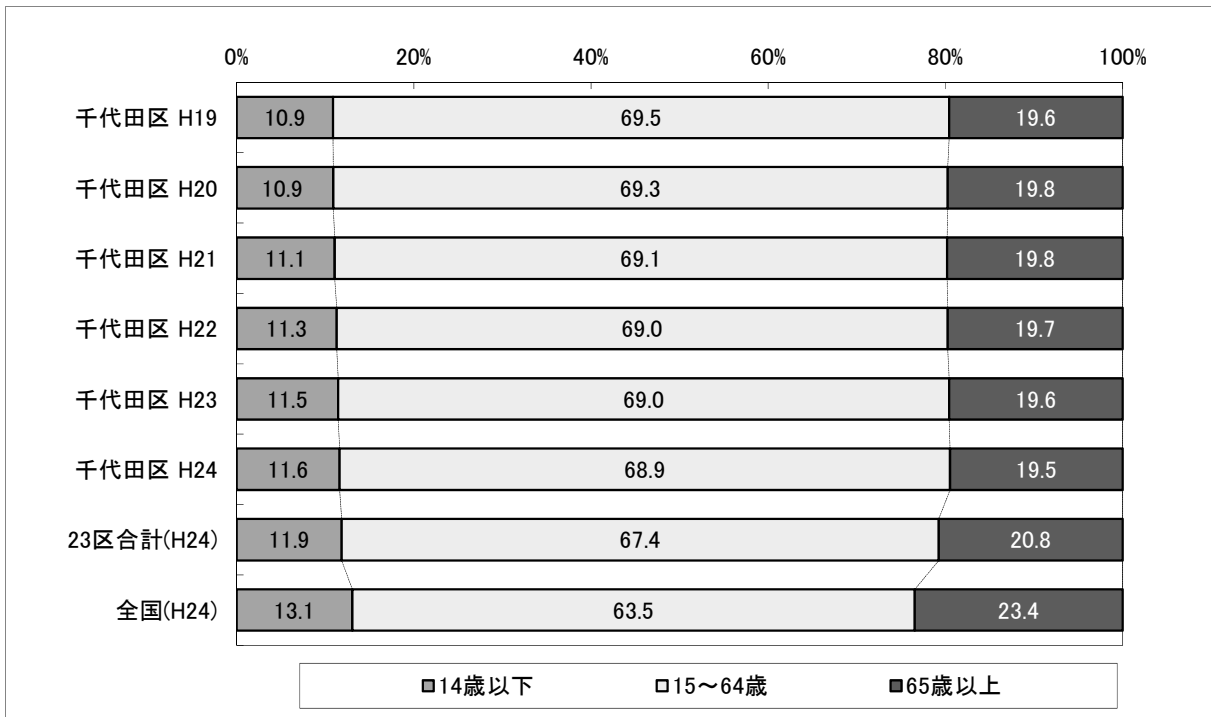
また、就業者の職業は、雇用者 66.3%、会社役員 19.3%、自営業 10.5%、家族従業者 3.8%となっています。千代田区は、全国、東京都と比較して、雇用者の割合が低く、役員の高割合という特徴があります。また、自営業の割合も若干高くなっています。

図表 2-1 人口の推移



(出典)平成 22 年国勢調査

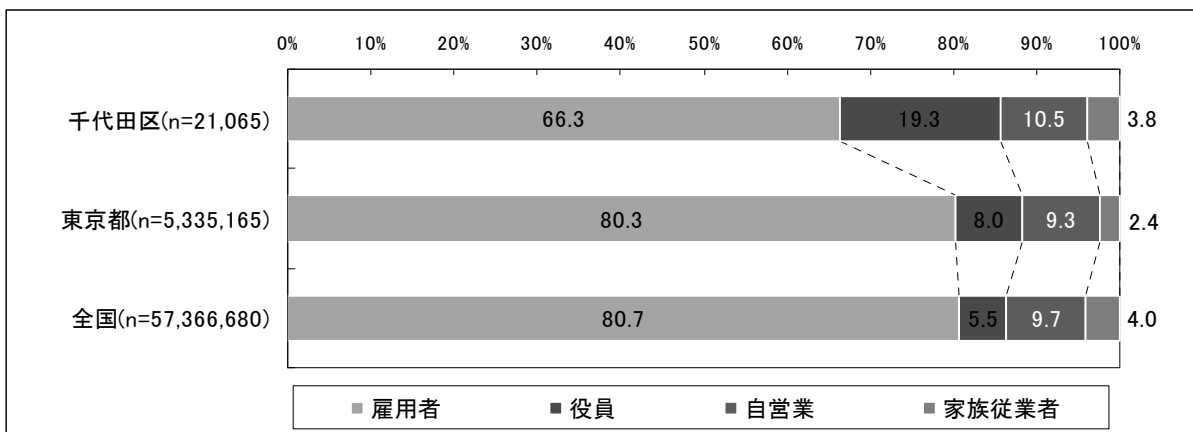
図表 2-2 年齢構成の推移



(出典)住民基本台帳統計資料(各年1月1日現在)

(出典)全国のデータは人口推定(平成23年10月1日確定値)

図表 2-3 就業者の職業



(出典)平成22年国勢調査

(2)区内の各団体

千代田区には、地域の自治組織である町会や、福祉、まちづくり及び環境保全といった、社会的な課題の解決に自発的に取り組む、NPOやボランティアグループなどの団体が、活発に活動しています。

千代田区内には、109の町会が組織されています。町会は、お祭りやイベントなどの地域の活動だけではなく、福祉や防災、防犯など、子どもからお年よりまで、安心して、楽しく暮らせる地域づくりの一翼を担っています。

町会を中心とした地域コミュニティは、千代田区の大きな特徴です。特に、区民参加のスポーツ事業である「区民体育大会」は、毎年、各連合町会等から約 8,500 人が参加し、スポーツを通じて、多くの区民が交流し、楽しめる行事となっており、地域コミュニティの発展に役立っています。

また、区内のNPOやボランティアグループには、千代田区が実施した「NPO 等との協働のための提案制度」を通じて、区と協働して区民へのサービスを提供している団体や、ねたきり防止にむけた介護予防の活動を推進している団体などがあり、区と協力することで、地域が抱える様々な課題の解決を図っています。

(3)学校

千代田区には、幼稚園が 12、小学校が 11、中学校が 14、中等教育学校が 1、高等学校が 18、専修学校が 27、短期大学が 5、大学が 15 あります。特に、私立中学校、私立高等学校、私立大学が多いのが特徴的です。学校は、区立中学校等でスポーツ開放、区立小学校で校庭開放を実施しているほか、コミュニティスクール¹においては、様々な施設を積極的に地域に開放し、区民のスポーツ、生涯学習の場としての活用を図っています。

図表 2-4 千代田区の学校

種別	公立／私立	学校数
幼稚園	公立	8
	私立	4
	合計	12
小学校	公立	8
	私立	3
	合計	11
中学校	公立	2
	私立	12
	合計	14
中等教育学校	公立	1
高等学校	公立	2
	私立	16
	合計	18
専修学校		27
短期大学	私立のみ	5
大学	私立のみ	15

(出典)学校基本調査

* 短期大学と大学は平成23年度数値

¹千代田区では、学校を地域の人々の文化学習・スポーツ等の生涯学習や地域コミュニティの拠点として位置づけ、学校の空き時間を活用して区民等に一般開放し、区民自らの主体的な活動を促進することを「コミュニティスクール」と呼んでいます。

(4)皇居、坂

皇居があることも千代田区の大きな特徴です。皇居一帯は、都心部にありながら非常に緑豊かで、その周辺は、ランニングコースとしても人気があります。皇居周辺を走るランナーの数は、年々増加しており、観光客・歩行者等との接触等が問題になりました。そこで、区は、平成23年12月に「まちの向上に向けた道路等の公共空間活用検討会皇居周辺地域委員会」を設置し、皇居周辺の歩道を利用するすべての人（ランナー・歩行者・自転車利用者等）が、互いに思いやりのところを持って、気持ちよく皇居周辺を利用できるよう取り組みを進めています。

また、千代田区には、坂が多く、様々な由来のある坂が57あり、それぞれに名前が付けられています。坂道は、平らな道に比べ筋肉や心臓への負荷が増します。日々のウォーキング・ランニングなどに坂道を取り入れることで運動効果の向上が期待できます。

(5)ラジオ体操会発祥の地

千代田区は、ラジオ体操会の発祥の地としても知られています。昭和5年に神田万世橋警察署（現 万世橋警察署）の面高巡査が、全国に先駆けて「佐久間公園（神田佐久間町3-21）」に地域の人たちを集めて「早起きラジオ体操会」を開始しました。昭和53年には、ラジオ体操会制定50周年を記念して、佐久間公園内に「ラジオ体操会発祥の地」の記念碑を建立しました。

現在でも、千代田区ではラジオ体操が盛んで、夏休み期間中だけではなく、区内の4か所の会場では、通年でラジオ体操が行われています。

特に、例年7月下旬には、夏期合同ラジオ体操会が開催されており、学校が夏休みに入った児童・生徒も参加し、区内各地区を巡回して実施されます。

近年、ラジオ体操は、健康保持・腰痛・ダイエット等の効果があると注目されています。今後も歴史と伝統を踏まえ、コミュニティの形成に有用な通年ラジオ体操会を継続していくとともに、夏季に開催している体操会の支援も継続していきます。

通年で実施されている区内のラジオ体操の会場

- ・ 東郷元帥記念公園（三番町18）
- ・ 靖国神社境内（九段北3-1-1）
- ・ 神田明神境内（外神田2-16-1）
- ・ 三崎町ラジオ体操会会場（日本大学法学部3号館付近）

(6)日本野球発祥の地

千代田区古書店街（神田神保町）にほど近い、学士会館の敷地内に「日本野球発祥の地」の碑があります。

そもそも当地は、東京大学発祥の地でもあります。東京大学の前身の開成学校が創設された場所で、明治5年（1872年）学制施行当初、第一大学区第一番中学と呼ばれた同校でアメリカ人教師ホーレス・ウィルソン氏が学科の傍ら生徒達に野球を教えたそうです。

翌明治6年（1873年）に新校舎とともに立派な野球場が整備されると、本格的な試合ができるまでに成長しました。これが「日本の野球の始まり」といわれています。

ボールを握る右手をかたどった碑はブロンズ製で、高さ2.4メートル。ボール上には世界地図が描かれ、日本と米国を縫い目によって結ぶことで「野球の国際化を表現」しています。



▲ 「日本野球発祥の地」の碑